

ふいるさとのうた

剣淵文化協会俳句部会



松に雪ちよびりおしやれ綿帽子

南桜町 宮腰幸子

初句会いけぬ吾が身のもどかしく

西町 岸波君江

雪女何処か入失せけもの痕

仲町 玉野研一

元日の揃うことなく朝ぼん

西町 杉浦とし枝

少しづつ暮らし戻して女正月

西町 金澤頼子

母の餅小さく千切つて雑煮椀

藤本町 鈴木ゆき子

明けきらぬ星の清らや寒の月

元町 印牧安子

神仏を崇める国の年新た

西岡町 高瀬久美子

掛軸の無事の墨書や寒に入る

仲町 坂部和子

猛吹雪止みて車窓に初日差す

東町 高橋世津子

皆の目を集め幼子初笑ひ

西原町 児玉久美子

満天の星をみあげる雪たるま

元町 西崎弘子

座のなごむ親しき会話初句会

西町 文梨清子

初鏡横からのぞく孫の顔

西岡町 渋谷みさ子

新年の厨に開く胡蝶蘭

仲町 梅基文子

雪像の力尽きたる斑はたれかな

仲町 芳賀星子

ひび居の余白埋むる細雪

緑町 池田良子

歳時記を匏に詰めて初句会

旭町 大河博子